

【奄美市立名瀬小学校】

勤務校での仕事の様子や魅力について

創立 153 周年を迎える本校は奄美市名瀬の中心に位置し、長年大島地区の中心校としての役割を果たしてきました。特に戦後、1945 年から 1953 年の米軍政府統治下時代には、日本復帰運動の集会場所として本校校庭が使用され、復帰悲願の演説には 1 万人以上の市民が集まったという記録があります。

また、1953 年 12 月の復帰の日には多くの人々が提灯行列で名瀬市街地を練り歩き、翌日には仮装行列で復帰を祝いました。現在、校区は奄美市役所や商店街が並ぶ「なぜまち」と 60 年前に埋め立てられた「長浜地区」から成り立っています。名瀬は古くから交流の中心地で、大島紬の産業が盛んな時代には、群島各地から多くの人々が集まり教育への意識が高かった地域です。現在は都市部から I ターンする家庭も多く、保護者、地域共に協力的です。



離島での生活の様子や魅力について



大島地区への赴任は 3 回目で、教諭時代に喜界島で 5 年間、県立青少年社会教育施設で 4 年間、現在の学校で 2 年目を迎え、合計 11 年目となります。名瀬地区では、住宅に関する問題が 2 つあります。1 つ目は「住宅が少ない」ということです。教職員住宅は数が限られ、民間住宅も異動の時期によって早く決まるため、競争が激しいです。2 つ目は「価格が高い」ことです。限られた住宅のため異動時には早めに情報を得ることが重要です。

名瀬地区は大型スーパーやコンビニがあり、年間を通して物品の購入はしやすい環境です。PC サイトからの注文も想像以上に早く届きます。しかし、台風や強風の影響で船が欠航し、生鮮食品などが品薄になることがあります。そのため、欠航情報を早めに得て、必要な商品を事前に準備しておくことが大切です。

着任当初はスノーケリングや釣り、カヌーなどの自然活動や集落行事を楽しんでいました。さらに奄美について学びたくなり、奄美市生涯学習講座や NPO 等主催の事業に参加して学ぶことができました。現在はその知識を広めるために、生涯学習講座でゲストスピーカーとして参加することもあり、そのおかげでさらに見識が深まっています。

これからの離島に赴任する方へのメッセージ

鹿児島県の教員として「離島勤務」は前向きに捉えてほしいです。大島地区には 8 つの島があり、それぞれに独自の文化が息づいています。赴任することで、单身でも家族とでも生活の質が向上すると断言できます。忙しい中でも、離島ならではの楽しみを見つけ、続けていくことが大切です。